

# 小学校第4学年「防災・減災」を事例とした命を守る小学校社会科の学習の工夫 ～家庭での対話や自然災害伝承碑の活用を通して～



近年本県のみならず、全国的に多発している自然災害に備え、児童の防災・減災への意識を高めることが重要です。現在、感染症対策等で社会見学等の校外でのフィールドワークの実施を見直す必要がある場合もあるかと思えます。緊急時においても、児童の学びを深めることができるように、小学校第4学年の「人々の生活環境を支える事業」の単元を「防災・減災」の事例を加える工夫を行うことで、学校と家庭での学びをつなぐ単元として提案してみました！

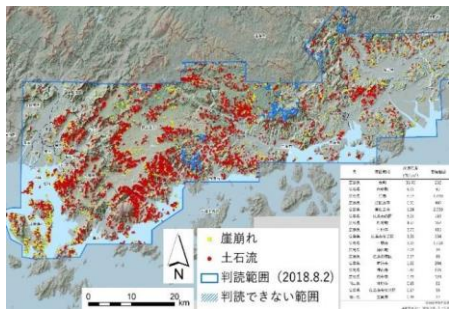
## 【単元名】人々の健康や生活環境を支える事業－生活を支えるライフライン－

### 目指す姿（イメージ）

防災・減災の視点から育成したい資質・能力	・自然災害の記憶・経験を伝承する力 ・自然災害と自己との関わりを考える力
知識・技能	・飲料水、電気、ガスを供給する事業は、安全で安定的に供給できるよう進められていることや、地域の人々の健康な生活の維持と向上に役立っていることを理解している。 ・見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめている。
思考・判断・表現	・供給の仕組みや経路、県内外の人々の協力などに着目して、飲料水、電気、ガスの供給のための事業の様子を捉え、それらの事業が果たす役割を考え、表現している。
主体的に学習に取り組む態度	・人々の健康や生活環境を支える事業について、主体的に問題解決をしようとしたり、よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしたりしている。

### 課題の設定

児童生徒の実態を把握し、興味・関心等から、課題意識をもたせる。



広島大学平成30年7月豪雨災害調査団（地理学グループ）（2019年）の調査結果

### 水道事業と自分との関係を考えよう！

- 水洗トイレの水使用量はどれくらいだろう？
- コロナの影響でどのように、家庭の水使用量はどうなったのだろう？
- 他の国の水事情はどうなっているのかな？
- 日本とは何が違うのかな？
- 全国的にも自然災害（主に水害）が起きているけど、たくさんの雨が降った後、雨はどこに行くのかな？自分たちが使う水は、どうやって届いているのだろうか？

水道事業などの安全で安定的な供給について、身近な事例や他国の事情と関連付けたり、県内の降水量や災害の発生状況等と関連付けたりすることで、子供たちの学習の必然性を高める工夫を行うと効果的です。

### 情報の収集

必要な情報を取り出したり、収集したりする。



左：自然災害伝承碑「例：水害碑 広島県坂町」  
右：新地図記号 災害伝承碑

### ライフラインの一つである水道事業の仕組みを考えよう！

- 飲料水や生活用水がどのような経路で自分たちに届いているのかを調べる。
- 浄水場、ダム、水源林、水道局で働いている人々の仕事や働きを調べる。
- 飲料水や生活用水の役割を考える。

### 児童の安全を第一に浄水場などへの社会見学中止

実際に浄水場などで働いている人の様子や仕組みを見ることが出来ない。  
⇒地域の先人が、これまでどのような工夫を行ってきたのだろうか？

### 整理・分析

収集した情報を整理したり分析したりして思考する。



### 家族と一緒に話したり調べたりしよう！

- 居住地のライフライン（水道事業など）
- 居住地の過去の自然災害について
- 過去の自然災害伝承碑などについて



学校で学習した水道事業などのライフラインの仕組みについて、居住地の過去の自然災害と関連付けて家族と話したり、調べたりしたことをまとめよう。

その際、ICT機器を活用して居住地の市町のHPや国土地理院のHPを参照すると効果的です。

### まとめ・表現

気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する。

### 家族と緊急時の具体的な対策についても話そう！（ライフラインの確保・避難行動）

家庭学習で家族と話したり、調べたりしたことを、学校で交流し、水道事業などのライフラインの重要性についての学習を基に、避難場所に必要な機能や継承すべき災害の記憶を表現する（紙芝居、解説看板、新聞をつくる）。異学年の児童や家族へのメッセージの作成。

総合的な学習の時間や国語科などでの学習とつなぐと効果的です。

### 課題の更新

次の内容（3）自然災害から人々を守る活動での学習で、学びを深めていこう！

学校で

家庭学習で

学校で